

2021年4月 星空案内



今月の星空

星空の暦



6～8日 日の出前に月が土星、木星に接近

日の出前の南東の低空に、土星と木星が並んでいます。6～8日は月がこの2つの惑星の下側を通り過ぎます。右上には土星、左下には木星が並び、木星の方が明るく見えます。この時期、柏市では日の出の時刻が午前5時20分頃と朝早いですが、ぜひ早起きをして見てみましょう。また日ごとに月の形が変わっていく姿も見てみてください。

22～23日頃 こと座流星群が極大

毎年、4月下旬に活発になる流星群です。放射点がこと座にあるため、こと座流星群と呼ばれます。今年は22日午後9～10時頃に最も活発になる(極大となる)予想です。ただ、極大の頃には、半月より少し膨らんだ月が明るく輝きます。観測のチャンスは、月が沈む頃、深夜から未明にかけてとなります。条件がそろえば、1時間に5個程度流星が見られるでしょう。4月ですが、まだ夜は肌寒いので、寒さ対策をしながら見てみましょう。

ワンポイント！流星の見られる個数

流星群の流星出現個数は、見頃の時期に天の川が見えるような暗い空で、一般の方が観察した時に見られる最大の流星数が目安になっています。明るい環境で観察する場合は数分の1になることがあり、より暗い環境で観察する場合は数倍になることがあります。こと座流星群は1時間に10個程度ですが、今回は月明かりで見える個数が少なくなっています。

今月の星座

うしかい座

オレンジ色に輝く1等星のアルクトゥルスをもつ、狩人の姿を表した星座です。アルクトゥルスは季節によって五月雨星、麦星などと呼ばれて親しまれていました。この星座の隣にはりょうけん座があり狩人の連れていた2匹の猟犬の姿を表しているとされています。

おとめ座

黄道十二星座のひとつで全天で2番目に大きな星座です。この星座の方向にはおとめ座銀河団という約2500個の銀河を含む銀河団が見られます。2019年に初めて撮影が成功したブラックホールがある銀河M87も、おとめ座銀河団のひとつです。青白く輝く1等星はスピカで、真珠星とも呼ばれます。また、うしかい座のアルクトゥルスとともに夫婦星と呼ばれることもあります。



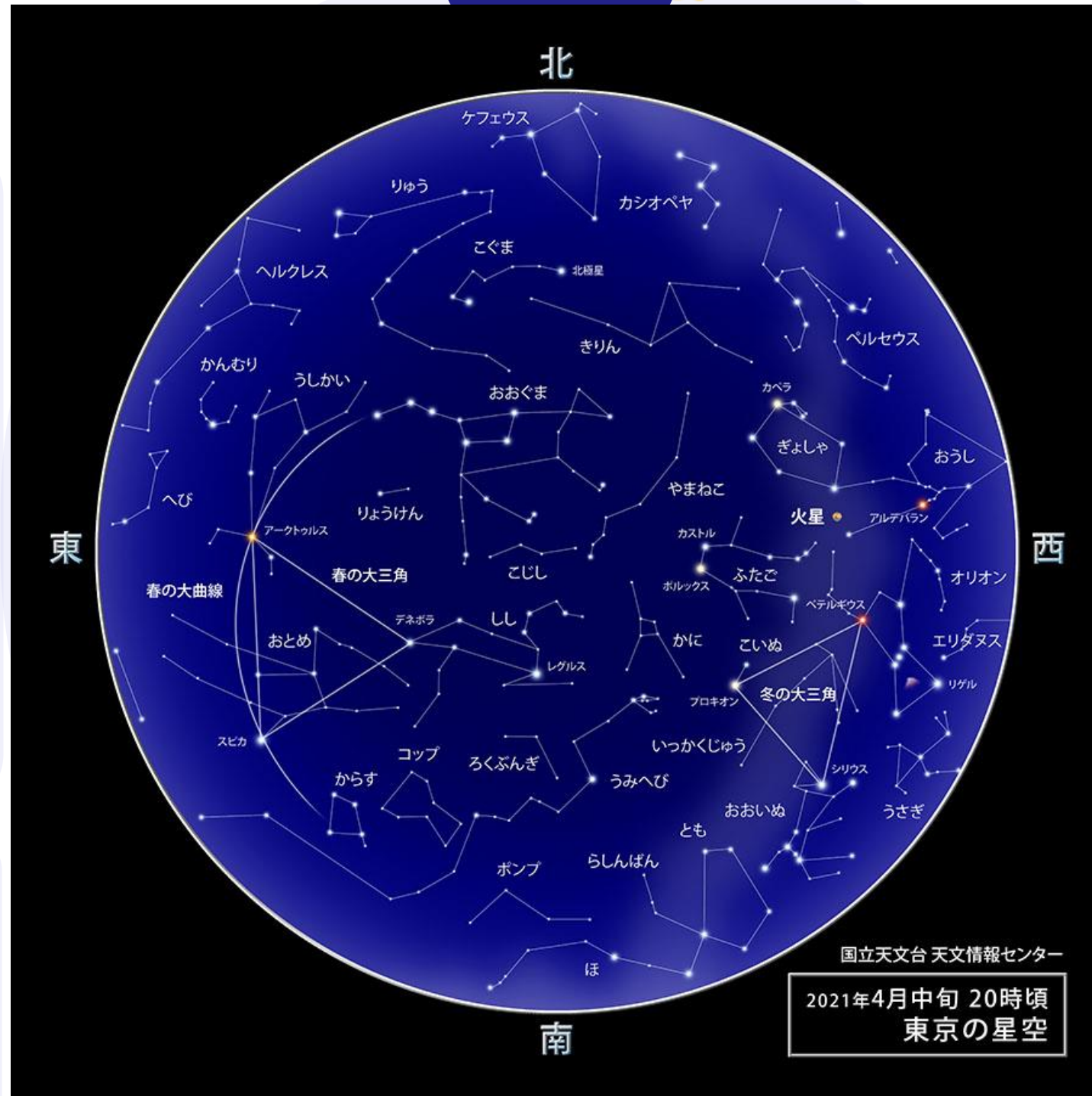
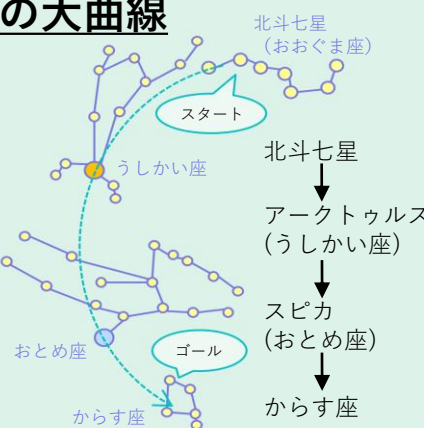
M87のブラックホール (Credit: EHT Collaboration)

かんむり座

半円型に星の並んだ小さな星座です。夏の星座ですので今は東の低い空で見られます。最も明るい星は2等星のアルフェッカです。この星はゲンマとも呼ばれ、ラテン語で宝石という意味を持つとおり冠の中央で輝いています。この星座と対になるように、7月頃からはいて座の近くに同じく半円型のみなみのかんむり座という星座が見られます。

ワンポイント！春の大曲線

先月紹介した北斗七星から、アルクトゥルス、スピカを通して、からす座の方向に伸ばした曲線を、春の大曲線といいます。この大曲線は、今月の3つの星座をはじめとする多くの春の星座を探す手がかりとなります。



国立天文台 天文情報センター
2021年4月中旬 20時頃
東京の星空

黄道12星座

太陽の通り道で輝く12個の星座のこと。お誕生日の星座としても親しまれています。

季節の小話

二十四節気

太陰太陽暦(いわゆる旧暦)にて用いられていた、季節やその移ろいを表すための言葉。現在でも、よく目にしますね。

*おひつじ座 (3月21日～4月19日頃)

ギリシャ神話では、悪い継母から、ある王子と王女を助けるために、大神ゼウスがつかわした金色の空飛ぶ羊とされています。

*おうし座 (4月20日～5月20日頃)

オレンジ色に光るアルデバランが目印の星座です。すばると呼ばれるプレアデス星団は、肉眼でも見られますが、双眼鏡などで観察するとより面白いでしょう。

清明 (4日頃)

清浄明潔という言葉に由来して、暦の上では気候が温暖になって桜や桃などの花が咲き始め、天地に清く明るい空気が満ちる頃とされています。

穀雨 (20日頃)

穀物を潤し芽吹かせるような春の雨が降る頃とされます。菜の花が咲く季節でもあり、この時期の長雨を「菜種梅雨」と呼ぶこともあります。